



5月13日(金曜日)

月/水/金 発行

国立病院敷地にサ高住

フレンド、急病にも対応

【宇都宮】調剤薬局や在宅介護を手掛けるフレンド（栃木県小山市、谷孝裕社長）は国立病院機

構宇都宮病院（宇都宮市）敷地内に民間のサ高住を設けるのは全国でも珍しい。入居者の急病にも対応できることを売り込

む。宇都宮病院の敷地の一部（1800平方メートル）を借り、木造平屋建て「ブルミエール・アミ岡本」を建設した。総戸数は20戸で、1人ずつの入居を想定。1戸当たりの広さは20平方メートルで洗面台や

トイレ、エアコン、インターネット設備などを完備した。主に要介護者や一人暮らしに不安を抱える60歳以上の高齢者の入居を想定し、台所や浴室は共用設備にした。家賃や食費、見守りサービスなどを含む月額料金は13万3000円。入居時には敷金5万5000円が別途必要だ。宇都宮病院によると、国立病院の敷地内にサ高住を設けるのは国立病院機構高松医療センター

（高松市）に続き全国2例目という。宇都宮病院の敷地は東京ドーム4個分に相当する約21万平方メートルで、未利用地の有効活用が課題になっていた。このため、高齢化でニーズが高まっている介護関連の事業者を公募し、通所介護（デイサービス）事業で実績のあるフレンドを選定した。フレンドは調剤薬局が主力で、栃木県や東京都などに21店舗を持つ。このほか、デイサービスやグループホームなど在宅介護も計42カ所を展開している。2016年3月期の売上高は前の期比8%増の50億円。